

# 2026年3月期 決算資料

株式会社 イクヨ

2026年6月12日

東証スタンダード  
証券コード:7273



## 目次

---

- 01 2026年3月期の業績 P4~
- 02 2027年3月期の予想 P10~
- 03 新経営戦略・成長戦略 P15~
- 04 Appendix P26~

## 目次

---

- 01** 2026年3月期の業績 P4~
- 02 2027年3月期の予想 P10~
- 03 新経営戦略・成長戦略 P15~
- 04 Appendix P26~

# 2026年3月期 実績 決算サマリー

- M&Aによる連結子会社化(2社)により前年同期比で増収増益
- 厚木工場のリースバック、株式取得に関わる違約金収入を特別利益として計上したことにより親会社株主に帰属する当期純利益は前期比で大幅増
- 原材料の高騰等による製造コスト増、成長に向けた人材採用や働き方改革への先行投資による人件費の増加、株式取得した海外子会社(Kunshan VeriTech Automotive Systems Co.,Ltd)取得原価の配分評価による減価償却費の増加等により予想比を下回る。

(単位:百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前年比		2026年3月期予想 (2025年8月14日公表値)	
			金額	増減率(%)	予想	差額率(%)
売上高	17,736	<b>30,144</b>	+12,408	+70.0%	30,201	△0.2%
営業利益	39	<b>540</b>	+500	+1,274.9%	955	△43.5%
経常利益	33	<b>167</b>	+133	+396.6%	793	△78.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	44	<b>2,756</b>	+2,712	+6,088.2%	3,256	△15.3%
1株当たり当期純利益	2円89銭	<b>108円00銭</b>	—	—	148円38銭	—
ROE	0.7%	<b>27.3%</b>	—	26.6pt	—	—

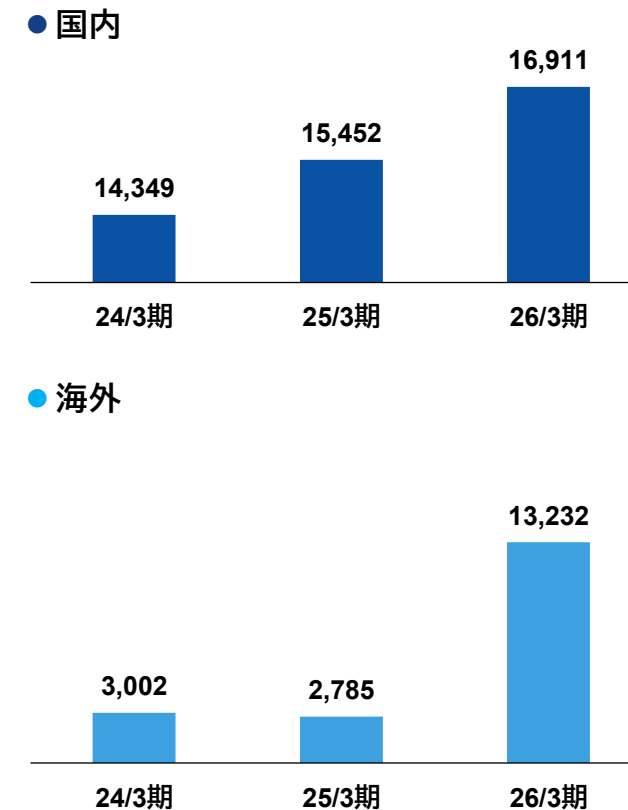
- 海外の大型M&Aにより海外比率が大幅増加
- 国内:国内の自動車部品事業は原材料や人件費の増加分の価格転嫁が追いついておらず利益面で厳しい結果となる  
営業利益については持株会社化による一時費用、成長に向けた人材採用や働き方改革への先行投資も負担
- 海外:期初の計画は下回ったものの収益面では底堅く推移

(単位:百万円)

		2025年3月期		2026年3月期		
		実績	構成比	実績	前年比	構成比
国内	売上	15,452	87.1%	16,911	+9.4%	56.1%
	営業利益	167	—	△572	—	—
海外	売上	2,283	12.9%	13,232	+479.4%	43.9%
	営業利益	△84	—	1,151	—	—
合計	売上	17,736	100%	30,144	+70.2%	100%
	営業利益	39	—	540	—	—

## 売上高の推移

(単位:百万円)

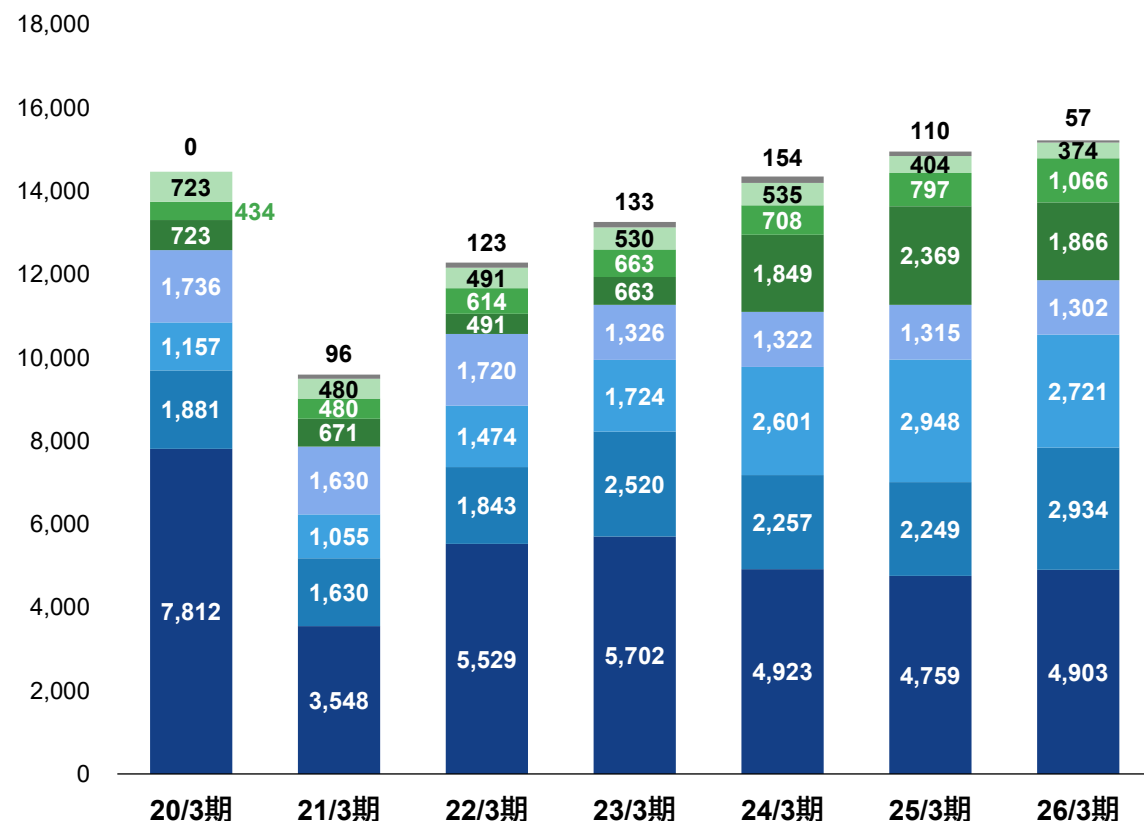


# メーカー別売上高実績(イクヨ(現イクヨオートモーティブ))

- 特定の顧客への依存を低減し、事業リスクを分散させるとともに、新規顧客の開拓を図ります。

## メーカー別売上高実績の変遷(国内)

■三菱 ■三菱ふそう ■いすゞ ■日野 ■トヨタ ■日産 ■マツダ ■その他

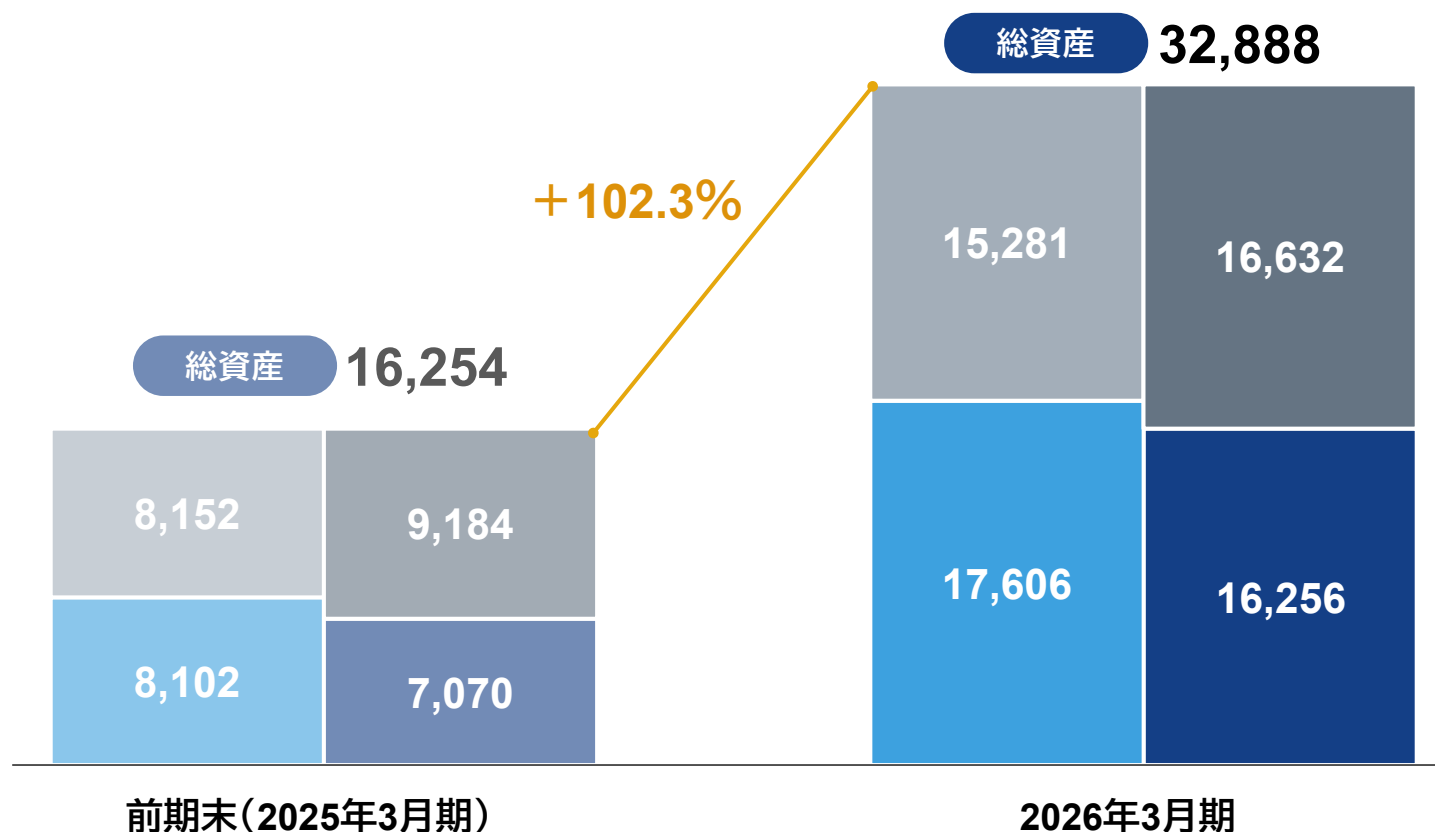


	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減 (%)
三菱	4,759	4,903	+145 (+3.0%)
三菱ふそう	2,249	2,934	+685 (+30.5%)
いすゞ	2,948	2,721	△227 (△7.7%)
トヨタ	2,369	1,866	△502 (△21.2%)
日野	1,315	1,302	△13 (△1.0%)
日産	797	1,066	+270 (+33.8%)
マツダ	404	374	△30 (△7.4%)
その他	110	57	△53 (△47.9%)
合計	14,951	15,226	+275 (+1.8%)

# 2026年3月期 連結貸借対照表

- 成長投資、成長に伴う運転資金の増加を見越した銀行借入および新株予約権の行使より大幅な資金調達を実施
- 厚木工場のリースバック等により獲得した資金を活用し大型の海外M&Aおよび国内の会社を連結子会社化 総資産328億円へ

(単位:百万円) ■ 流動資産 ■ 固定資産 ■ 負債 ■ 純資産

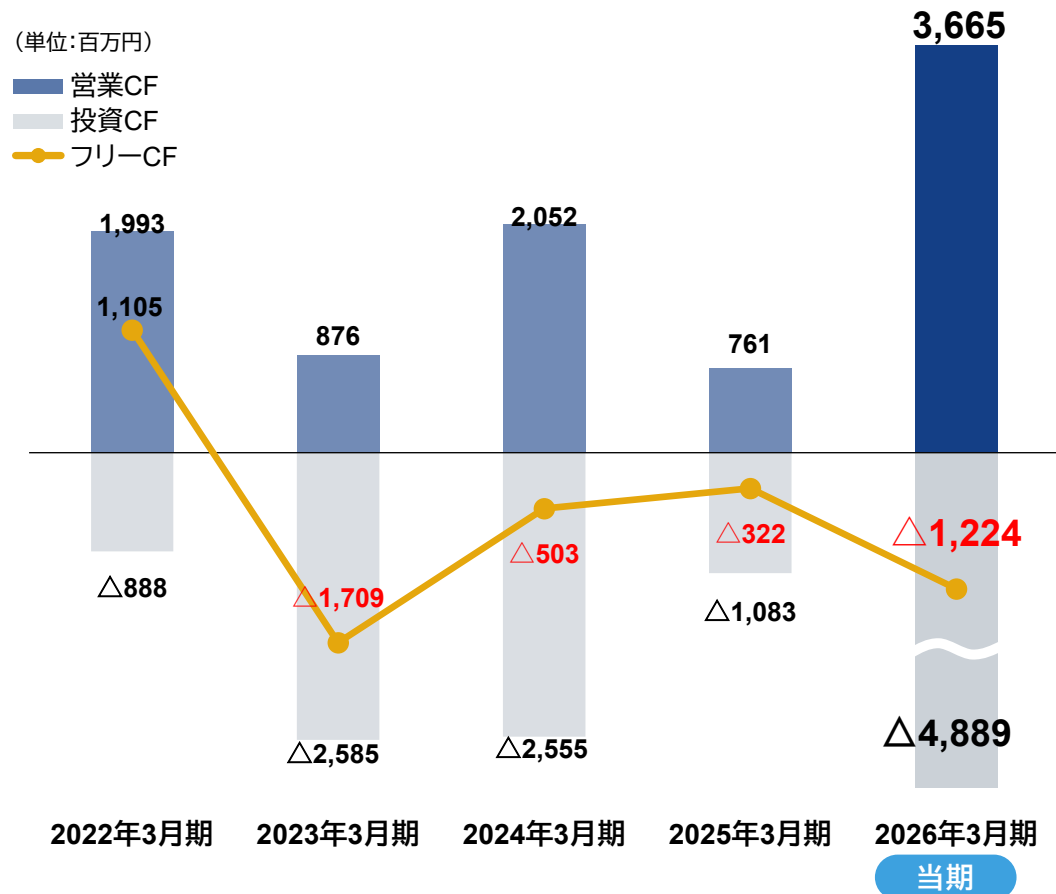


流動資産	+7,128百万円
固定資産	+9,504百万円
負債	+7,447百万円
純資産	+9,185百万円

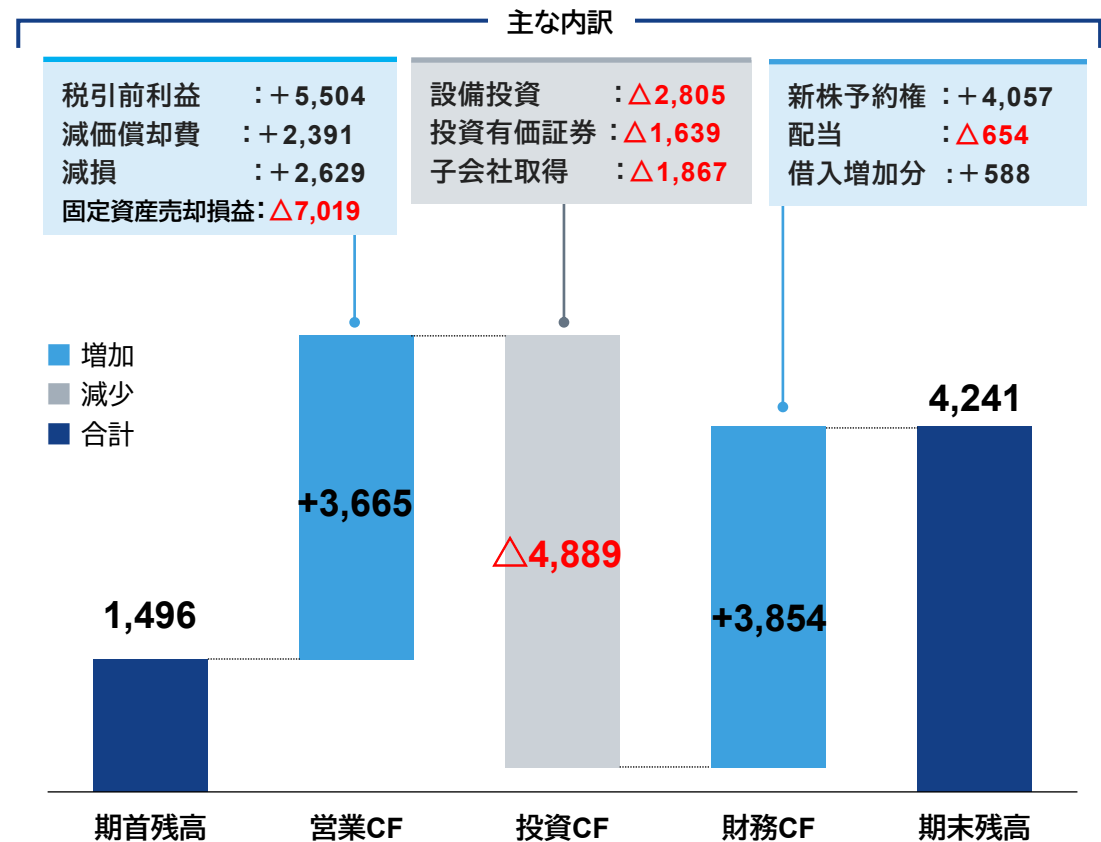
# 2026年3月期 連結キャッシュフロー

- 財務活動で得た資金を、国内外のM&Aや次世代領域へ積極的に投資

## 連結キャッシュフローの推移



## 当期のキャッシュフロー詳細



## 目次

---

- 01 2026年3月期の業績 P4~
- 02 2027年3月期の予想 P10~**
- 03 新経営戦略・成長戦略 P15~
- 04 Appendix P26~

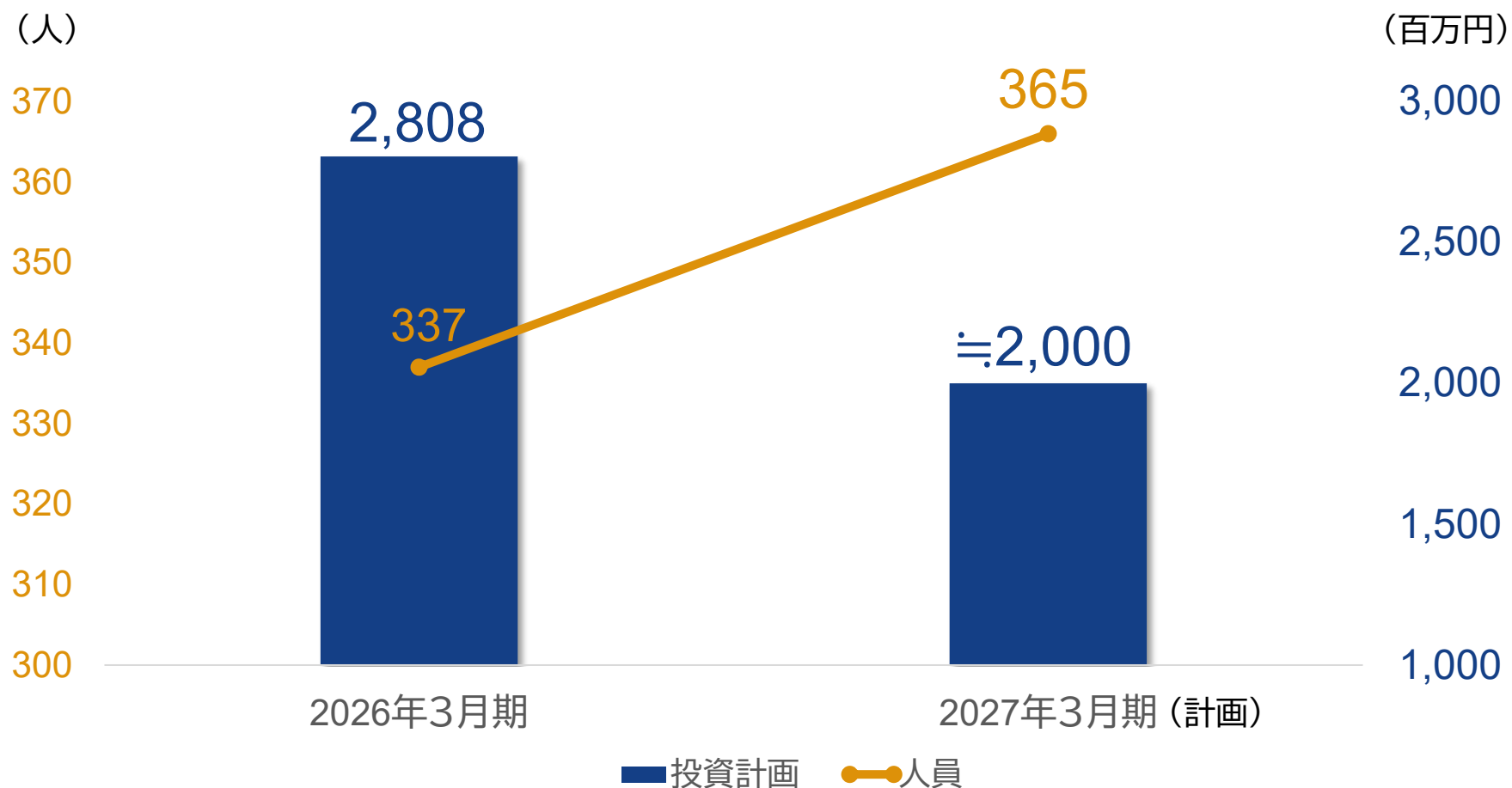
# 2027年3月期 業績予想サマリー

- 国内事業は横ばい、持株会社化等による一時費用等の減少等により利益改善
- 海外事業は伸長を予想、コスト面を意識した事業改善により増益
- 2026年4月1日効力発生の持株会社化に伴い、「資本政策の柔軟性」「投資家への透明性」「リスク分散」「成長戦略の機動性」「財務健全性」の推進を強化。成長戦略の加速へ

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	予想－実績	
			金額	増減率
(単位:百万円)				
売上高	30,144	<b>34,386</b>	+4,242	+14.1%
営業利益	540	<b>1,290</b>	+750	+138.9%
経常利益	167	<b>1,091</b>	+924	+553.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,756	<b>61</b>	△2,695	△97.8%
1株当たり当期純利益	108.00	<b>2.08</b>	—	—

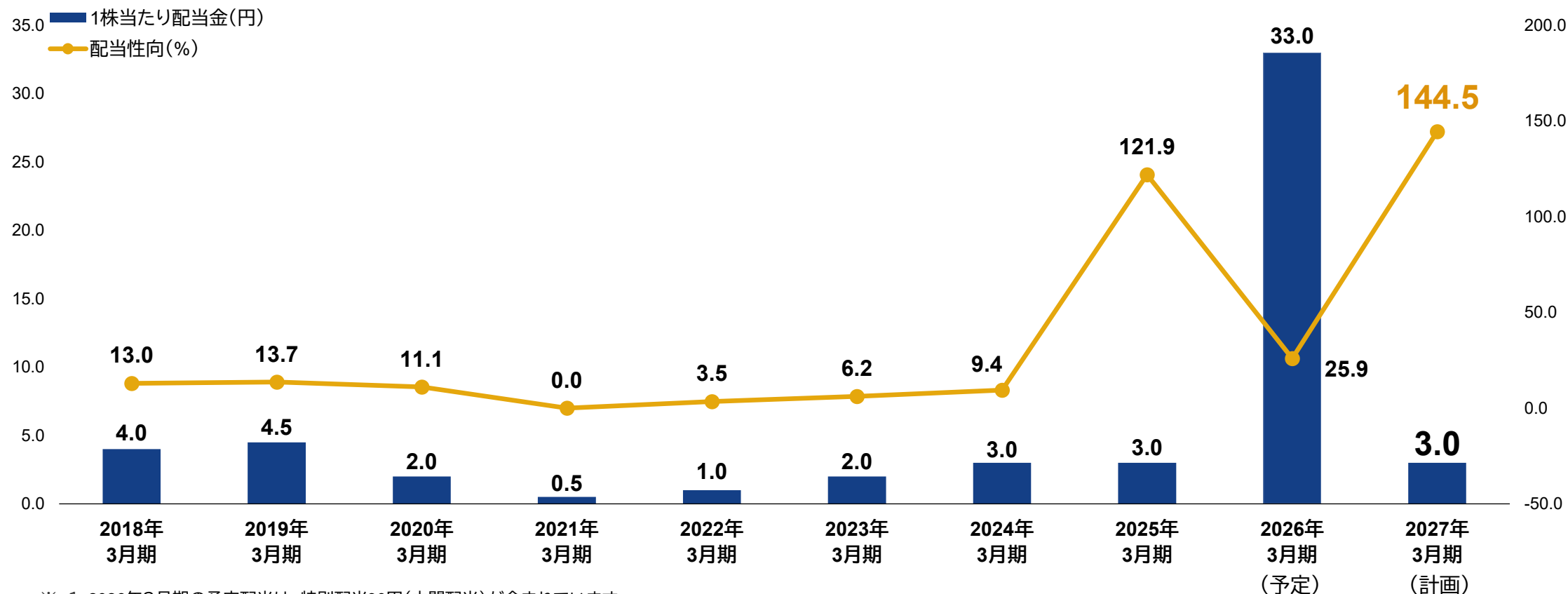
# 設備投資額および従業員数の実績・計画(連結)

- 引き続き積極的な設備投資等を実施、総額としては前期比減を見込む
- 事業の拡大により人員増を計画



## 配当方針

当社は、株主の皆様への安定的な利益還元と、企業体質の基盤強化および将来の事業展開に備えるための、株主資本の充実を利益配分の基本方針としております。



- ※ 1. 2026年3月期の予定配当は、特別配当30円(中間配当)が含まれています。  
 2. 2026年3月期期末配当の3円は2026年6月23日開催予定の定時株主総会承認により決定いたします。  
 3. 2025年6月1日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。第2018年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して記載しております。

当社は、株主皆様への安定的な利益還元と資本効率の工場を最重要課題と位置づけ、「特別配当」、「自己株式の取得」、「Web3時代の新たな株主優待」の3本柱で、企業価値の向上と積極的な利益還元を推進いたしました。

## 基本方針・配当

安定還元と基盤強化



### 基本方針

安定的な利益還元と、将来的な事業展開・企業体質の基盤強化に備えた株主資本の充実を両立

### 直近の還元 (2026年3月期予定)

**33**円/1株当たり配当金※

うち特別配当 **30**円

- ※1. 2026年3月期の予定配当は、特別配当30円(中間配当)が含まれています。
- 2. 2026年3月期期末配当の3円は2026年6月23日開催予定の定時株主総会の承認により決定いたします。

ホールディングス化等の多角化戦略の進捗に伴う、株主様への積極的かつ大幅な利益還元を実施

## 自己株式の取得

資本効率の向上



### 実施の目的

株主還元の一環および、環境変化に伴う機動的な資本政策の遂行

### 直近の還元 (2026年3月期実績)

**26**億円 **200**万株  
(上限取得総額) (上限取得総数)

発行済株式総数に対する割合 **6.84%**

取得期間: 2025年11月17日～2026年9月30日  
取得方法: 市場買付(ToSTNeT-3を含む)

進捗状況(2026年5月末時点 累計)  
取得実績: 118,000株(総額 約96百万円)

## 新たな株主優待

先進的なWeb3・暗号資産への取り組み



### 実施の背景と目的

デジタル資産・ブロックチェーン技術を将来の成長領域と位置づけ、当社の理解促進を図るため初の株主優待として実施

### 実施内容

対象: 2025年9月30日時点で500株以上保有の個人投資家様全員

10万円相当30名 → 3万円相当: 100名

1万円相当: 1,422名(特選枠を拡大)

### 実施実績(2025年12月実施)

**788**名(配布完了人数)

※一部株主を対象として延長措置実施(2026年1月対応)

## 目次

---

- 01 2026年3月期の業績 P4~
- 02 2027年3月期の予想 P10~
- 03 新経営戦略・成長戦略 P15~**
- 04 Appendix P26~

## Evolve Beyond.

変化を恐れず、新たな価値を創り出す。  
技術と信頼で、社会の明日を支える企業グループへ。

### 制定の背景と目的

#### 環境の変化

EV化・自動運転技術の進展、サブプライムチェーンのグローバル化など、自動車産業の歴史的構造変化

#### 組織進化

2026年4月、次なる成長を見据えた「持株会社体制」への移行

#### 目的

既存事業の強化と新領域への挑戦(両輪経営)を支え、中長期的な企業価値向上をけん引する「共有の価値観・判断基準」の確立

### Mission

確かな品質と技術力を磨き続けるとともに、社員一人ひとりの成長と挑戦を支え、人と技術の力で社会に必要とされる価値を創造し続ける。

### Vision

変化する社会環境に適応しながら、モビリティを起点に技術と価値を進化させ、次世代産業を支えるグローバル企業となる。

### Value



#### 信頼を守り抜く

品質第一を徹底し、安全・コンプライアンスを基盤に顧客から揺るぎない信頼を獲得する。



#### 変革を生み出す

既存事業の収益力を高めるとともに、先端技術・アライアンスを通じて新たな価値と市場を創造する。



#### やり抜く組織

人財育成と組織改革を推進し、グローバルで成果を出し続ける実行力のある企業体質を築く。

### 成長戦略への実装



#### 「両輪経営」の推進

#### 主力事業の進化

グローバルサプライチェーンの最適化(KVAS社取得等)  
CASE領域への技術革新対応



#### 新規事業・M&A

暗号資産/ステーブルコイン決済、再生可能エネルギー、ロボット、水素事業等の先端領域への果敢な挑戦

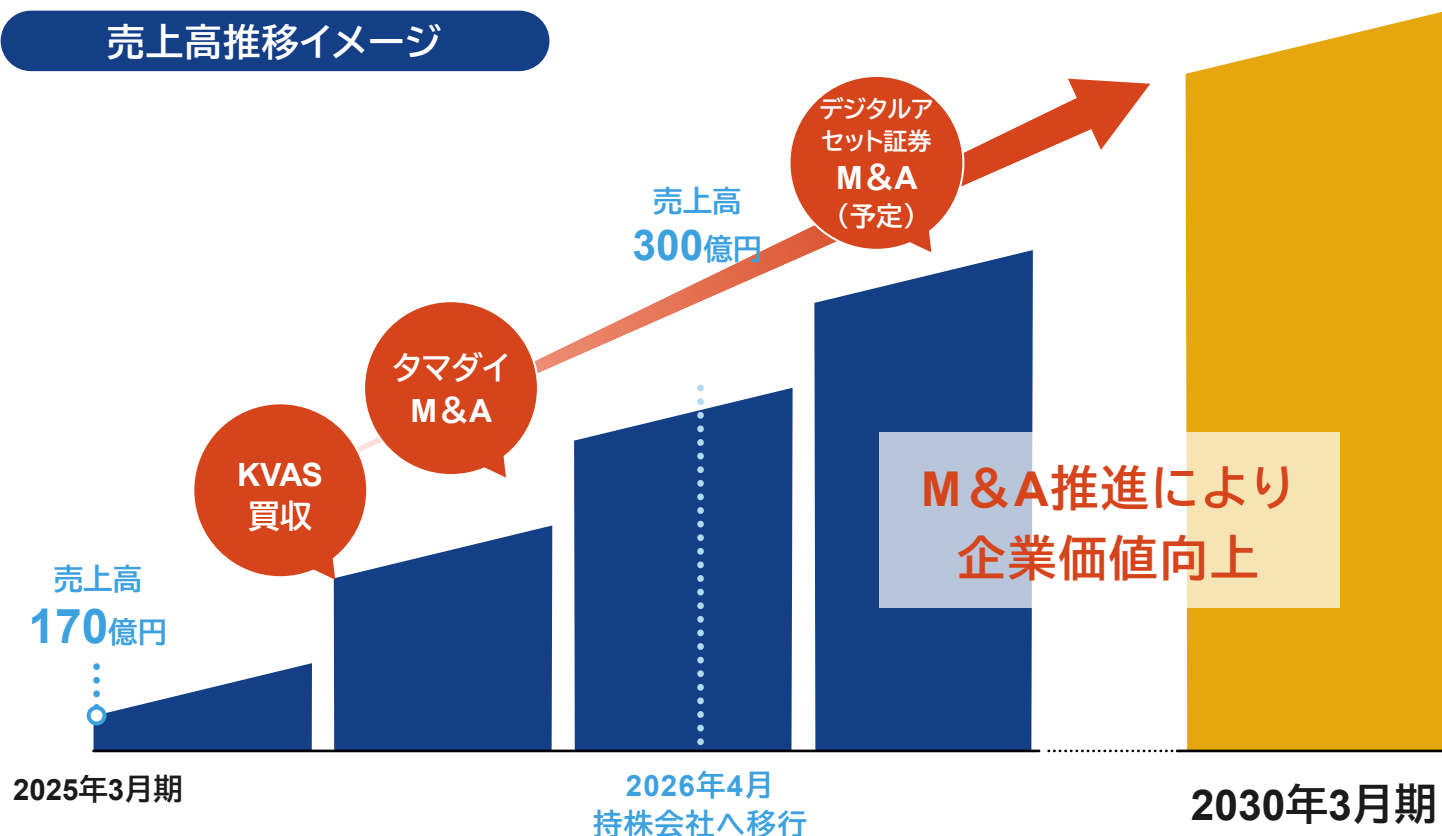
MVVを基本思想として  
位置づけ、持続的な企業  
価値の最大化の実現を目指す

## 経営戦略の視座で束ねた組織体制を構築

ホールディングス化によるイクヨグループの拡大

▶ KVAS社の買収を筆頭に、今後もM&Aの推進

売上高推移イメージ



### 拡大戦略

- ① 新規事業や事業拡大に投資する  
リスクマネーの資金調達
- ② M&Aや資本・業務提携による外部ケイパビリティ獲得
- ③ 成長戦略による「既存事業の強化」、「新規事業の積極展開」、「戦略的アライアンス」の遂行
- ④ 各事業会社にフィットした人事制度導入による優秀な人材の獲得と育成

## 経営戦略の視座で束ねた組織体制を構築

### ホールディングス化によるイクヨグループの拡大



#### 戦略 1

##### M&Aおよび資本・業務提携

M&Aや資本・業務提携による  
外部ケイパビリティ獲得



#### 戦略 2

##### 人材の獲得と育成

各事業会社にフィットした人事制度  
導入による優秀な人材の獲得と育成



#### 戦略 3

##### リスクマネーの資金調達

新規事業や事業拡大に投資するリスク  
マネーの資金調達

#### KVAS社※株式の取得(子会社化)

※ Kunshan Veritas Automotive Systems Co., Ltd.(現Kunshan VeriTech Automotive Systems Co.,Ltd)

- 国際競争力を強化し、グローバル拡大を推進
- 新市場への進出および新規顧客の獲得を図ることによる営業力強化

- ① 厚木工場土地リースバック
- ② 第三者割当増資の実施

- KVAS社株式の取得費用および  
新工場への移転費用に充当

～ 次のステージへ、共に歩み、共に成長するために ～

企業価値の最大化



## 既存事業の強化

自動車部品事業の競争優位性確立

グローバルサプライチェーン最適化  
国内拠点と海外(インドネシア・中国)を  
活用した安定供給とコスト競争力

## CASE・技術革新への対応

EV・自動運転技術、  
軽量化・高効率化・高機能化に資する新素材の導入

## 顧客基盤のグローバル拡大

東アジア、中南米、東南アジア、  
欧米市場へ積極展開



## 新規事業の積極展開

次世代メガトレンドへの挑戦

### Web3・暗号資産

B2B決済プラットフォームの構築・マイニング事業

### 環境・グリーン

太陽光・蓄電池システム導入による環境負荷低減

### ロボティクス(RaaS)

スマートシティ、災害対策、環境保全への活用

### 水素ビジネス

水素自転車などサステナブルな社会構造への転換



## 戦略的アライアンス

外部知見による非連続的な成長

### M&Aの積極活用

技術力獲得と事業領域拡大(2社+1社予定)

### オープンイノベーション

大学、研究機関、スタートアップとの共同開発

### 決済PF共同開発

各国の法規制に対応したB2B暗号資産  
決済システムの実用化

組織基盤の変革:2026年4月 ホールディングス体制への移行

「一緒に成長するM&A」を原則に、事業の多角化と高い資本効率を両立させる投資方針を策定

## 基本方針

友好的な協働型PMI:敵対的買収は行わず、対象企業の技術・人材を尊重するソフトランディング型の統合。対象企業と持続的な価値創造に努める

## 戦略的ターゲット領域



製造DX/ロボティクス:AI/IoTを活用したスマートファクトリー技術、自動化ソリューション等



次世代エネルギー:太陽光・蓄電池システム、水素活用技術などの環境負荷低減に資する領域等



EV・CASE用周辺技術:独自技術を持つ地域密着型の中堅・中小企業、新素材開発等



暗号資産プラットフォーム開発、ブロックチェーン関連企業等

## 投資判断基準と起立



技術的・事業的シナジー:既存事業(技術・販路・生産)との掛け合わせにより、相乗効果の最大化が明確に見込めるか



グローバル親和性:当社の既存拠点(神奈川、名古屋、岡山、インドネシア、中国)との連携が可能か



資本効率への寄与:単なる規模拡大を排除。企業価値向上に直結する専門チームによるDDとリターン要件の充足



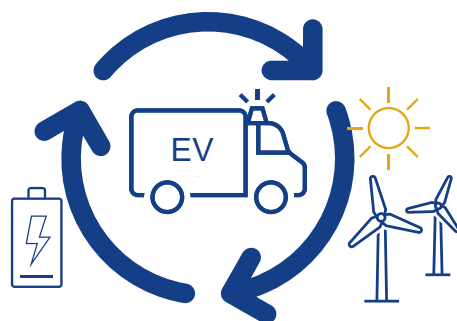
ESG・地域共生:対象企業の地域社会・ステークホルダーとの良好な関係性を維持し、サステナブルな経営に合致するか。

## 戦略の実行体制 — 4つの柱と強固なアライアンス・エコシステム

「ラストワンマイル×地域課題解決」に向けた、各領域とのアライアンスの積極的推進

### ①EV商用系車両と エネルギー循環型モデル

ASFとの業務提携



日本規格準拠の商用小型EV  
バッテリー・再生可能エネルギーを含む持続的なエネルギー循環型社会の実現

### ②自動運転SI・ソフトウェア開発

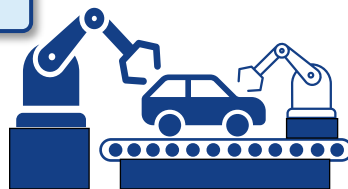
Moving X MINIEYE ロボトラックとの提携



L4自動運転ソリューション、Robobus、ADAS技術の統合  
「ソフトウェア・アルゴリズムから車両、運用までを包含したエコシステム構築」

### ③製造・アッセンブリー基盤によるシナジー最大化

イクヨグループの国内・海外製造拠点



ASFのEV車体や、MovingX・MINIEYEの自動運転車両の量産化を  
直接的に支える「ものづくり」の中核機能。

### ④日本市場における差別化ポジション

ムラキとのEVレンタカー・SS事業協業検討



ラストワンマイル物流と移動手段としてEV・自動運転の普及  
全国のSSネットワークを活用した社会実装と地域課題の解決を目指す

## ① 暗号資産及びステーブルコイン関連事業の展開

「アライアンスを中核としたデジタル経済圏の創造」

自動車部品製造で培った強固な基盤とWeb3技術を融合し、国際B2B決済の革新と持続可能な資産形成を実現する



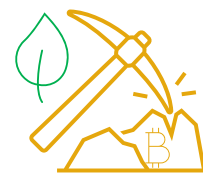
### ステーブルコインB2B決済インフラ (成長ドライバー)

既存の貿易金融の課題(高コスト・遅延)を解決する、  
ほぼゼロコスト・リアルタイム決済インフラの構築

**【資本業務提携】**  
Galactic Holdings Ltd. (出資額3億円)  
中南米等、新興国市場におけるB2B越境ネットワークの構築

**【業務提携】** INSPIRY JAPAN株式会社  
Web3と従来型決済を融合した次世代ハイブリッド決済端末  
(PPS7700)の展開

**【協会設立主導】**  
一般社団法人ステーブルコイン決済協会  
日本のデジタル決済発展に向けた技術標準化とルール形成をけん引



### 持続可能な暗号資産マイニング

再生可能エネルギーを活用し、環境負荷を低減した  
安定的なデジタル資産形成

**【業務提携】**  
YIMIAO TECH PTE. LTD. (出資額7.5億円)  
最新鋭マイニングマシンAntminer S21+J1,400台の導入・運用委託  
月間約4BTCの採掘目標とグリーンエネルギーを活用した  
持続可能なマイニングを推進

### イクヨ既存事業とのシナジー (概念実証と社会実装)

**ステーブルコイン決済の実施**  
カナダでのマイニング機械や電力代金の  
支払いに活用し、従来の銀行送金に比べ  
送金期間と費用を大幅に削減を確認。

**ハードウェア製造受託(OEM)**  
自動車部品製造の高度な品質管理ノウハウ  
を生かし、INSPIRYの高性能決済端末の  
日本国内向け製造受託を推進

**グリーンエネルギーの自社消費**  
名古屋工場に導入済みの太陽光  
発電システムを活用し、余剰電力による  
持続可能なマイニングを実現

外部リソースとの戦略的提携により、持続可能な社会の実現となる次となる成長ステージへ

## ②環境貢献型事業の進化

再生可能エネルギーの最適利用によるサステナブルな収益創出

- ・名古屋工場にて太陽光発電の余剰電力を活用した「サステナブルマイニング」を運用開始
- ・休日の工場非稼働電力を利用し、カーボンフットプリントを低減

### 【Next Step】

「分散型データセンター」の構築

エッジコンピューティング等へ日稼働時間の電力を提供し、エネルギーの地産地消とデジタルインフラ推進を両立

## ③ロボット事業の推進

サービス提供型(RaaS)ビジネスモデルの展開と製造現場の高度化

### 【包括的業務提携】

#### Senxeed Robotics(株)

- ・UBTECH社製産業用ヒューマノイド等を自社工場へ実装・実証を検討
- ・厳しい自動車工場基準をクリアした活用モデルを「Japan Quality」としてパッケージ化し、グローバル展開を目指す

### 【業務提携】

#### Keenon Robotics(株)

- ・世界シェア1位の商用サービスロボット企業と連携
- ・当社の量産設計・品質管理ノウハウを応用し、社会実装を持続的に加速

## ④水素事業の加速

次世代エネルギーを活用した環境対応型モビリティの開発・普及

### 【資本業務提携・子会社化】

#### YOUON JAPAN(株)

- ・同社株式を取得し子会社化、一体的な経営基盤を構築
- ・水素自転車、水素燃料電池、水素発生機等の事業展開を推進

- ✓「EXPO 2025 大阪・関西万博」にて水素自転車および水素生成機を導入
- ✓長崎県時津町と「水素サプライチェーン構築に関する包括連携協定」を締結
- 水素自転車および水素生成器を活用した実証実験(PoC)を本格化へ

オープンイノベーションとM&Aを駆使し、既存の自動車部品事業の強み  
(量産設計・品質管理)を次世代の成長産業へとトランスフォーム



# イクヨグループの成長戦略④ 次世代モビリティ領域の成長加速

## 次世代モビリティ領域の成長加速に向けた「子会社の米国資本市場上場準備」開始

2026年4月の持株会社体制への移行に伴い、事業会社「イクヨオートモーティブ(株)」の米国市場での上場準備を開始。グローバル市場での資金調達と企業価値の最大化を目指します。

### 米国上場を目指す目的



#### 成長資金の調達

EV関連技術・自動運転分野等の研究開発および事業投資を加速させるグローバル資本市場からの資金獲得



#### 企業価値の顕在化

次世代モビリティ領域の親和性が高い海外(米国)資本市場において適切な評価を獲得し、価値を最大化



#### 人材採用力の向上

上場会社としての認知度・信頼力向上を通じた、次世代を担う高度専門人材の確保と組織基盤の強化

### 背景・位置づけ



#### 世界的な構造変化

EV化・自動運転・脱炭素などの自動車産業の急激な変化へ対応



#### 持株会社化への移行

2026年4月効力発生。グループ経営管理機能と事業執行機能に分離による戦略高度化



#### 次世代モビリティ投資

既存事業の基盤を生かし、成長分野への投資を加速させる最適な資本政策の追求

### イクヨオートモーティブ(株)



#### 設立

2025年11月



#### 出資

当社100%



#### 事業

合成樹脂製品・金属・ゴム製品の製造加工および販売



#### スキーム

2026年4月の吸収分割により、当社の主力事業を同社へ継承

### 今後の展望



#### ●上場手法:

新規株式公開(IPO)やDe-SPACなど複数の選択肢を視野に準備



#### ●上場市場:

米国市場での上場を前提に、最適な上場手法・市場を慎重に検討



次世代モビリティ領域での持続的な成長と企業価値向上を目指す

# *Evolve Beyond.*



変化を恐れず、新たな価値を創り出す。  
技術と信頼で、社会の明日を支える企業グループへ。

ご清聴ありがとうございました。

本資料に関する  
注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの予想値とは異なる可能性がありますことをご承知おきください。



# Appendix

## 変わらぬ信頼を力に、 変わりゆく時代の先駆者へ

当社は、既存事業の安定と新規領域への挑戦を両立させる「両輪経営」を基本方針としております。自動車産業はEV化や自動運転など大きな構造変化の中にあり、事業環境は日々変化しております。

当社はこれまで、メーカー隣接型の生産体制を基本とし、現地で生産し現地で供給する方針のもと事業を展開してまいりました。この体制は効率性の向上や為替リスクの低減につながるとともに、地域社会との共生にも寄与しています。

また、当社の軽量化技術は、従来のガソリン車・ディーゼル車のみならず、EVにおいても必要とされる分野であり、変化の中においても活かせる事業基盤を有しております。

経営判断においては、常に複数の選択肢を持つことを重視し、リスク管理体制の強化に努めております。同時に、外部との連携や新分野への取り組みを通じ、小さな挑戦を積み重ねることで将来の成長機会を育ててまいります。安定した事業基盤を守りながら、持続的な企業価値向上を目指してまいります。



株式会社イクヨ  
代表取締役社長

孫 峰

## 社是

和して合理主義に徹し、  
社業の発展を通じ、  
社会に貢献する

会社名

株式会社イクヨ

設立

1947年5月

資本金

47億4,901万円

発行済株式数

2,938万5,000株

決算期

3月

代表者

代表取締役社長 孫 峰

株式登録

東京証券取引所 スタンダード市場  
(1995年8月上場 証券コード:7273)

連結従業員数

337名(2026年3月31日現在)

事業内容

グループ全体の経営方針策定および経営管理等

本社所在地

東京都港区赤坂4-9-25

子会社

Kunshan VeriTech Automotive Systems Co.,Ltd  
PT.IKUYO INDONESIA  
株式会社タマダイ  
YOUON JAPAN株式会社  
IKUYO VIETNAM CO.,LTD.

創業

1947

- **1947年**  
自動車窓用ゴムの製造並びに販売を目的として  
㈱イクヨ商会設立
- **1951年**  
荒川工場設置、自動車窓用ゴムの  
自社製造を開始
- **1953年**  
イクヨ化学工業㈱に商号変更
- **1959年**  
樹脂成型品製造開始
- **1964年**  
神奈川県厚木市に厚木工場を  
設置し、荒川工場を廃止

1970

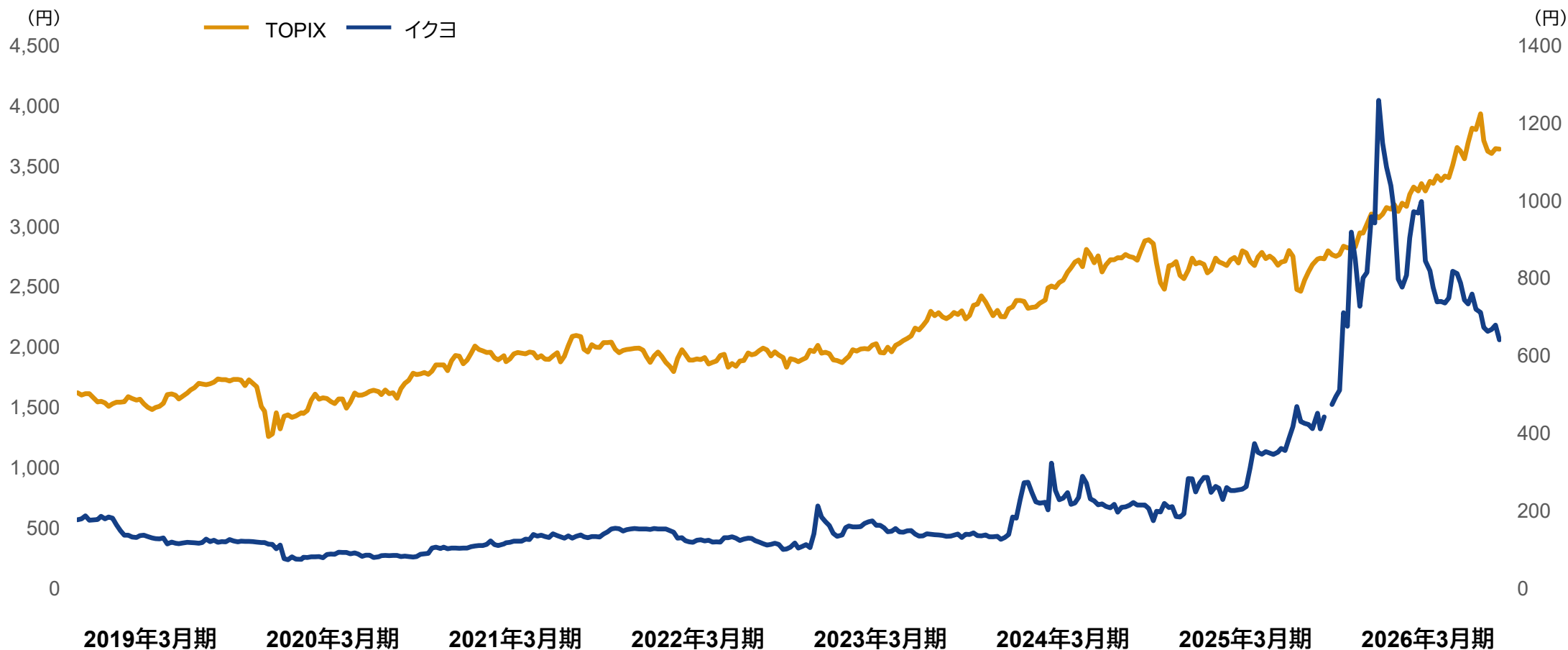
- **1969年**  
水島工場  
(岡山県倉敷市、現岡山工場)を設置
- **1974年**  
㈱イクヨに商号変更
- **1977年**  
岡崎工場  
(愛知県安城市、現名古屋工場)を  
設置
- **1995年**  
日本証券業協会に株式を  
店頭登録
- **1997年**  
東京証券取引所市場第二部に上場  
名古屋第二工場を設置

2000

- **2001年**  
イクヨワークス株式会社および  
イクヨ塗工株式会社と合併
- **2013年**  
インドネシアに子会社  
「PT. IKUYO INDONESIA」を設立

2020

- **2021年**  
IKUYO VIETNAM CO.,LTD.を設立
- **2022年**  
東京証券取引所の市場区分  
見直しにより、スタンダード  
市場へ移行
- **2025年**  
Kunshan VeriTech Automotive  
Systems Co.,Ltdの51%の株式を取得  
し連結子会社化  
株式会社タマダイの100%の株式を  
取得し連結子会社化
- **2026年**  
子会社と吸収分割を実施し持株会社  
体制へ移行



IKUYO	176	77	117	131	157	272	372	657
TOPIX	1,588	1,399	1,954	1,946	1,998	2,757	2,649	3,483

【国内】高品質および効率化を目指した拠点展開を実施

【海外】インドネシアを皮切りに、中国等アジア圏を中心とした更なる市場拡大に向け、競争力の強化を行う

## 国内 工場：5箇所

### 岡山工場



設立：1969年  
主な取扱製品：  
大小問わず部品作ります

### 厚木工場



設立：1964年  
主な取扱製品：  
大きな樹脂部品もお任せ

### 名古屋工場(第一工場)



設立：1977年  
主な取扱製品：  
ロボット塗装がある工場

### 名古屋工場(第二工場)



設立：1997年  
主な取扱製品：  
ロボット塗装がある工場

### 神奈川県開成町 株式会社タマダイ

設立：1966年  
主な取扱製品：  
ダイカスト品の製造、加工

## 海外 工場：3箇所

### ベトナム

IKUYO VIETNAM CO.,LTD.

設立：2021年  
事業内容：  
ベトナム市場の調査

### インドネシア

PT.IKUYO INDONESIA



設立：2013年  
事業内容：  
自動車用樹脂部品の製造販売

### 中国

Kunshan VeriTech Automotive SystemsCo.,Ltd



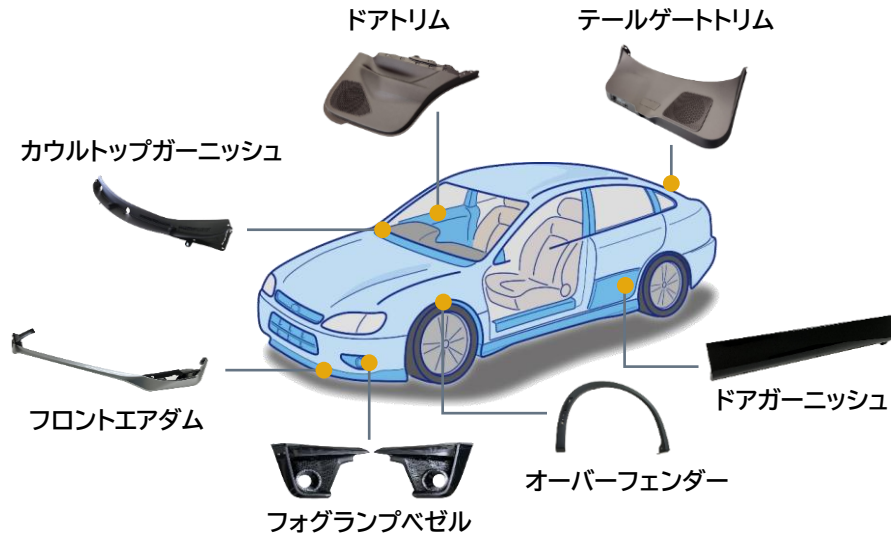
設立：2013年  
事業内容：  
自動車用樹脂部品の製造販売

- 自動車の内装・外装部品を中心に、さまざまな樹脂成型部品を生産
- ポストパンデミック時代のグローバル製造業の回復と再構築

## 主要取扱製品

### 乗用車

デザイン性や快適性を重視した部品(内装部品、外装部品など)を供給

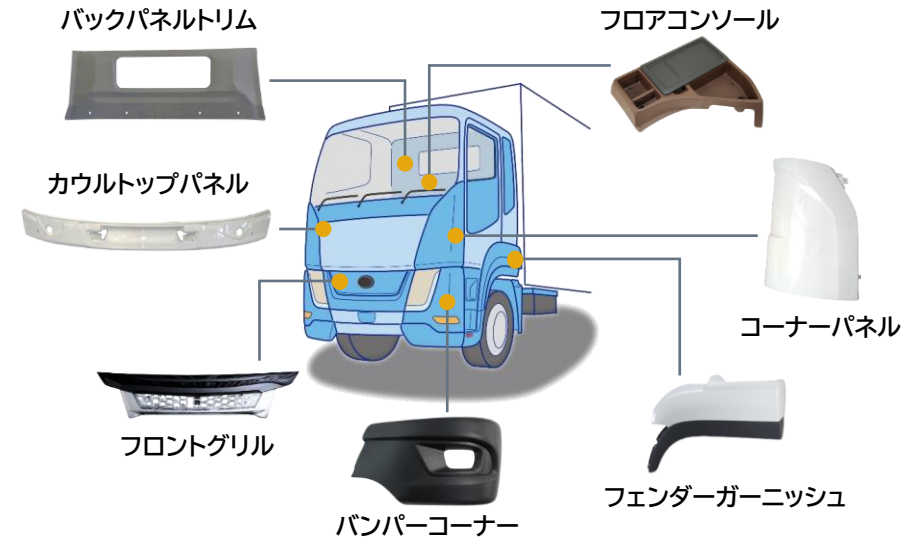


#### その他 取扱製品

- フロントピラートリム
- センターピラートリム
- ドアピラーガーニッシュ
- クォーターピラーガーニッシュ
- スカッフプレート
- サイドエアダム
- デルタガーニッシュ
- スプラッシュシールド
- グリルガーニッシュ
- フロントバンパー
- フロントグリル
- ロアグリル

### 商用車

耐久性や機能性を重視した部品(バンパー、ラジエーターグリルなど)を提供



#### その他 取扱製品

- クォーターガーニッシュ
- ドアガーニッシュ
- バッテリーカバー
- マッドガード
- ステップウォール
- レーダーガーニッシュ
- オーバーヘッドコンソール
- ドアトリム
- フロントピラートリム